

第4回 長岡版広域道路ビジョン 懇談会 議事録

■日 時：平成31年3月19日（水） 11:00～12:00

■場 所：アオーレ長岡 4階大会議室

■議事次第

1. 開 会
2. 挨拶
3. 委員の紹介
4. 議 事
 - (1) パブリックコメントの結果
 - (2) 長岡版広域道路ビジョン（案）
6. 閉 会

■懇談会の様子



■委員発言概要

事務局より長岡版広域道路ビジョン（案）を説明し、懇談会より承認を得たため、「長岡版広域道路ビジョン」が策定された。

●長岡版広域道路ビジョンについての感想

【委員】

広域道路計画として非常に細かく、長岡の小さな地域から県全域および関東甲信越、東北、中部、関西に、非常に夢のあるビジョンができたと思っている。100年後の姿を考えたときに、ビジョンの目的に書かれているように、長岡市および中越地域の道路整備目標に掲げ、周辺との連携をはかりながら、周りも同時に成長できるよう、長い目で見て、将来に残るようなものを作っていただきたい。

【委員】

道路ビジョン、100年先を見据えた素晴らしいかたちでまとまった。2月3日のシンポジウム、パネルで参加したが、想像以上に参加者が多かった。

パブリックコメントでは、只見線を休日だけでも長岡から観光のために使えるようにし、バスと組み合わせるような観光施策の話題、また、柏崎、小千谷、魚沼、長岡の周辺の病院との連携の指摘、小児医療専門施設の話、高齢化社会を見据えて公共交通に力を入れて行こうという話題があった。

いろんな指摘を踏まえて、道はただ単にあるのではなく、人々にいかに関係しているかということがわかった。100年後を見据え、いかに市民の皆さんが考えていらっしゃるのかという思いを知らされた。

非常に素晴らしい内容にまとまったと思う。

【委員】

国や県の広域道路計画を良く強調しており、長岡、中越地域を発信する、バランスのとれた計画である。昨日、取引している関東圏の米の卸しが来たときには、これから道路ビジョンがきちんとできることを話した。ぜひ、ビジョンを関東の我々業者にもきちんと教えてもらいたいと伺った。素晴らしいビジョンだと思うので、実現していただきたい。

【委員】

懇談会では、子育て中の母親目線で発言をしてきた。私のまわりに3月で、転勤される方が多く、北関東に引っ越される方に関しては、特に長岡からアクセスが遠回りになり、周りに頼る人がいなくて孤立してしまうのではといった不安が聞かれていたが、道路がつながることで孤立しないことにつながると感じた。高齢者に対しても、やはり健康的な生活にとって道路がつながって孤立しないことはとても大切と感じている。このビジョンは、本当に人の交流が生まれる、心豊かな暮らしをイメージできるような内容になっていると思う。

【委員】

私も2歳になる娘がいるが、100年先の未来をつくるということで、私にとっての孫、ひ孫世代まで関わる話に関わらせて非常に有意義な時間を過ごせたと思う。

この前の北海道地震のときでも、東日本地震のときでも、福祉施設が被害を受けて避難しないといけないときに、避難先はあるがそこに自分たちが避難していいものなのか、また、自身に障害のある方は、避難所へいってもいいものなのかと悩み、いつ余震で崩れてもおかしくない家に居ざるをえないなどの

話を聞いていた。そのため、避難経路が増えることで、受け入れ先の施設で特別な支援などを受けられ、避難所が避難先の選択肢に入ってくるという未来も、少しずつ広まっていく印象を受けた。

県外に行き易くなることで、いろんなイベントとかの交流人口も増加が見込めると考えられるし、パブリックコメントにあるように、小児医療専門施設も待ち望まれている。非常に夢のふくらむ広域道路ビジョンになったと思う。

【委員】

歴史的にみても会津と栃尾というのは近い。そのため、このビジョンを進めていく意味合いで、我々栃尾としても何かできないか考えた。商工会、観光協会、外山脩造の顕彰会などでメンバーを募って、今年中に昔のルートを通って会津若松のほうに寄せていただいて、今後の交流を深めさせていただくことが、我が地域としては一番大事なことと思っている。栃尾だけじゃなくて長岡市あるいは近くのいろんな方が、歴史の学びで会津若松と交流を持つことで、ビジョンの立案性の重要度が増すと思っている。まずアクションとして、先ほど述べた会津との交流を今年中に行いたいと考えるので、ご支援をお願いしたい。

【委員】

小千谷の方は鉄工会、食品製造業、錦鯉の国魚化ということで沸いているが、人口減少は同様に課題である。以前から小千谷は学校教育や生涯教育などの教育が弱いと感じている。道路、交通が便利になり、先端産業、技術交流など、日常的にいろんな交流ができることが大事だと思う。交通の問題というのは避けて通れない課題だと思っており、小千谷では、信濃川左岸の南北軸や、長岡同様に中央を信濃川が流れていることから、東西市街地の一体化が重要であると考えている。教育の交流、文化交流、観光などをいろいろ考えるためには、広域道路ビジョンが不可欠であると思う。

【委員】

柏崎には私が応援する立場にある国立病院機構の新潟病院があるが、柏崎の人だけじゃなくて、小千谷の人や、県内広くからその病院を利用されている方がいる。ビジョンの実現により、リダンダンシーの確保の役割は十分果たしてくれると思っている。

柏崎も長岡に負けないようにがんばろうとしているが、人口が減少していくことが現実にあるため、地域が独自性を持ちながら、その地域をネットワークで結び、広域で地域をアピールしていく姿勢が求められていくと思っている。そこで、広域版道路ビジョンは、中越地域を広くアピールするいい材料になるものと確信している。また、新幹線問題で、新潟県が分断されつつあるなかで、このビジョンが新潟県の一体化の一助になることを切に願っている。

【委員】

2月3日のシンポジウムには魚沼から大勢参加させてもらったが、非常に素晴らしいビジョンにまとまったと思う。

昔、高速道路は雪が降っても動かしていたが、今は安全を確保するために、大雪時に高速道路が通行止めになる。17号線も除雪作業があるために止まり、大渋滞が起きていた。そんな中で今回生まれたこのビジョンを、太い軸をこれから細かく考えていくのだと思うが、行政を巻き込んでいただいて、うまく実現していただけたらと思う。

魚沼エリアも相当人口減でいるが、やはり大きな未来を考えていかないと生きていけない時期だと思う。魚沼もいい自然環境があり、いい観光資源もある。美味しいお米もある。そんな中でこれから何を売りにしていくのかを考えていきたいと思う。

【委員】

新潟県にとって長岡、中越というのがこの場所を通らなければ首都圏にも行けないし、どっかに行こうと思ったら必ず長岡を通らなきゃいけないということで、その中で長岡を中心とした中越地域が、ネットワークを充実させるということがいかに大事かということが提示できたと思う。パブリックコメントであった医療・福祉だけでなく、高等教育機関とか中等教育機関のこともある。そのため、小千谷、柏崎、魚沼といった、中越の長岡周辺の自治体の方にも参加していただいているということの意味合いをちゃんとビジョンに反映できたと思う。

元岩手県知事の増田寛也さんが書いた『地方消滅』にならないように、中枢中核都市として長岡市が地方圏のダムとして、いろいろなものを留めて、その周辺の地域のコアとしてきっちり整備されていくことが大事だと思う。機能が整備されるとともにネットワークも整備して行くことの必要性を、長岡版広域道路ビジョンでまとめることができたと思う。

100年の計としてのこのビジョンが、中越地域に対するノブレスオブリージュ（中枢中核都市として長岡市が中越地域に対して果たす責任）を発揮するのに非常に役に立つと思っている。

【委員】…欠席により事務局によるメッセージ代読

少子高齢化や人口減少等による地域活力の低迷を懸念し、次の100年に向けたビジョンを策定するというこの懇談会の目的に感銘を受け、会津側から参加をさせていただきました。

まず、この道路ビジョン案は様々な要素が取り入れられ、大変バランスのとれた素晴らしい内容であると感じております。

中越地域の魅力は多岐にわたっており、自然・食・温泉・雪・歴史・文化などが特徴的ではありますが、産業においても会津地域とは比べ物にならないくらい充実しております。そんな中でも皆さんが大変な危機感を持ってこの懇談会に臨んでいる訳であります。

会津も少子高齢化や人口減少等にプラスして若者の流出が顕著であり、危機感を持たなければいけないのは我々でありますので、この懇談会での情報を参考にさせていただき、持続可能な地域の創生を目指したいと思っております。

今後とも中越地域と会津地域の交流促進に相互協力に取り組むことができますよう祈念申し上げ、御礼といたします。ありがとうございました。

以 上